

次世代へ平和の尊さを語り継ごう



▲参加者の皆さん

広島へ家族で行き、平和について考えるこの事業は、平成2年から行っているもので、今年で17回目。親子でゆっくりに向き合ひ、平和の大切さや仲間を思いやる心、家族の絆など、たくさんさんのことを考えた2日間でした。

1日目は宮島の厳島神社を見学した後、音声ガイドを聞きながら広島平和記念資料館を見学。次の日は、平和記念公園で参加者と住民の方々が折ってくださった千羽鶴を捧げ、資料館で被爆体験者による講話を拝聴しました。講師は、竹岡智子さん。17歳のとき、爆心地から3km離れた自宅で

家族で学んだ 広島平和のバス



「たくさんの人々が、わが子を、親を愛する人を残し、苦しみながら亡くなった。何の罪もない人を殺す戦争を許せない。私は、命ある限り、原爆の恐ろしさ、戦争の悲惨さを伝え、平和を訴え続けたい」と話されました。



被爆。そのときの様子などを語られ、



▲全国から集まった仲間と平和について考えました

「播磨町平和特使」として ピースフォーラムに参加

町立両中学校より2人が、長崎で行われたフォーラムに参加し、全国から来た生徒たちと平和について話し合い、独自の平和宣言文を作成し発表。また、8月9日には平和祈念式典へも参列しました。



播磨南中学校3年
しばた 宇輝さん

外国ではたくさんの方で核を持っていることを知った。僕はいつも思う。なぜ核を持つのか、なぜ核実験をするのか。核を使ったところで何の得にもならないのと思う。武力の怖さは全世界が知っている。原爆も武力だ。僕は思う。全世界が武力のない、原爆も水爆もない、戦死する人もいない、誰もが皆、空を見上げながら「今日も平和だなあ」と言える世界を僕は願う。僕は長崎に行って被爆者やいろんな人の話を聞いたり、原爆資料館に行って心の奥深くから本気で思った。

—— 武力のない、平和な、世界を ——



播磨中学校2年
にしおか けんご
西岡 健吾さん

原爆の恐ろしさについて学びました。それは、原爆は多くの人の命、生活、家族、そして、その人たちの夢や希望を奪うことです。僕はなんだか恐くなりました。こんなことが本当に61年前に起こったと、信じたくはありません。でも無かったことにしては何も始まりません。このことを今も訴え続けている人も多くいますし、被爆者の皆さんもいます。そしてこのことを未来の人たちに伝え続けたいです。

最後に一番大切なことは、みんなが仲良く協力や助け合いの心をもつことだと僕は思います。

平和になる 努力を!!



播磨西小学校6年
高城 研太くん

日本は今戦争をしてなくて平和だけど、世界ではいまだに戦争をしている国があります。早く戦争をなくし、平和な世界がくるといいな。原子爆弾を持っていてる国は広島や長崎のことをもっと考えて原子爆弾をなくす努力をしてほしいと思います。

世界が平和に なりますように



播磨小学校5年
西村 綾乃さん

被爆体験者である竹岡さんの話は、とてもしよげきで恐ろしくて寒気がしました。こんなに怖い思いをしたのは初めてです。

私は、この広島平和のバスに参加して、世界を平和にしていきたいために、私たち一人ひとりが、今後、何をしないといけないのか考えてみました。具体的にはどうしたらいいかわからないけど、この広島であったことをみんなが知るべきだと思いました。一日でも戦争はやめて、世界が平和になることを願っています。

忘れてはいけない 戦争



播磨南中学校2年
田辺 真也さん

広島へ来たのも、もう5度目。広島へ原爆投下されてもう61年。61年前、あたり一面焼け野原だったとは思えないほど今はきれいな町並みです。ただ原爆ドームだけは痛々しく残っている。それをみると原爆のすごさがわかりました。被爆した人がどんなに熱く、苦しい思いをして死んでいったか、生き残った人もどんなに苦しい日々を生きてきたか、僕たちは忘れてはいけません。

平和祈念講話会

8月1日(火)、中央公民館で「平和祈念講話会」が行われました。

今年も町内中学校1年生と住民の方約350人が参加。広島市の被爆体験を語り継ぐ活動をされている「かたりべ」さんの話に耳を傾けました。

講師は広島市在住の中園芳子さん。被爆した時の様子などを語られ、「原爆は一瞬で多くのものを奪った。今ある平和を大切にしたい」と訴えられました。

